

## スタッフ紹介

\* 氏名、現職、専門分野、担当研究事業、および2013年度の研究業績について紹介します（一部、過去に掲載していなかった過年度の業績も紹介します）。今年度新任のスタッフには、研究紹介および2012年度以前の研究業績についても掲載します。

---

### 井上順孝 所長・教授 宗教学、宗教社会学

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

#### 【単行本】

- ・『要点解説 90分でわかる！ ビジネスマンのための「世界の宗教」超入門』（編著）東洋経済新報社、2013年10月。

#### 【論文】

- ・「宗教の境界線—学生に対する意識調査から」『國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所年報』第6号、2013年9月。
- ・「映画・ビデオ／DVD」渡辺直樹編集責任『宗教と現代がわかる本2013』平凡社、2014年3月。
- ・「“新宗教”研究の射程—新興宗教から近代新宗教へ」市川裕編『世界の宗教といかに向き合うか 月本昭男先生退職記念献呈論文集第1巻』聖公会出版、2014年3月。

#### 【口頭発表】

- ・（講演）アメリカ・ハーバード大学日本文化研究所40周年記念会議における講演“Japanese new and traditional religions in the information and globalization age: A consideration of various changes experienced since the mid-1970s”、2013年9月。
- ・（発題）日仏会館、フランス事務所主催の会議“Religion, laïcité, morale. Culture religieuse, morale laïque et nouvelles politiques en France et au Japon.”（「宗教・ライシテ・道徳—日仏の道徳・宗教教育と新たな政策」）における発題、日仏会館、2014年3月。
- ・（講演）「宗教の歴史地図—宗教文化の相互理解のために」日本通運社内研修、2013年8月。
- ・（講演）「企業のリーダーに必要な世界観—宗教は人々の生活や考え方にどんな影響を与えているのか」サッポログループ講演、2013年9月。
- ・（基調講演）「現代日本の宗教状況と宗教文化教育」ベトナム政治学院交流会・基調講演、於國學院大學、2013年11月。
- ・（講演）「宗教観—日本人にとっての宗教、現代における宗教」日本能率協会、2013年11月。

### 齊藤こずゑ 教授 教育心理学、発達心理学、映像メディアによる発達表象と時代効果、公放送映像メディアの分析

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

#### 【論文】

- ・「子どもの発達と記述メディア」『國學院雑誌』115巻1号、2014年1月、pp.1-17。
- ・「子どものフィールド参与観察における倫理」『質的心理学フォーラム』第6号、特集「対話と葛藤としての研究倫理」2014年10月、pp.26-33。

#### 【口頭発表】

- ・「映像メディアにおける発達表象の構成」日本発達心理学会第25回大会、於京都大学、予稿集289／全pp.753、ポスター発表、2014年3月21日。
- ・「子どものフィールド参与観察における倫理を執筆して」話題提供2、質的心理学フォーラム編集委員

会企画シンポジウム「質的研究と倫理：対話と葛藤としての研究倫理」日本質的心理学会大11回大会、シンポジウム、於松山大学、2014年10月18日。

[その他]

- ・(シンポジウム講演録)「倫理意識向上に関する一具体策～倫理規程作成～」倫理委員会企画講習会(シンポジウム)「音楽療法における「倫理意識とリスクマネジメント力」の向上を目指して」『近畿音楽療法学会誌』Vol.12(2013年版、2014年3月30日、pp.23-40。

**遠藤潤** 准教授 宗教学、日本宗教史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』を拠点とする国学の『古事記』解釈の研究」

[口頭発表]

- ・“Language, Spirits and Cosmology in Study of Kodo 古道の学びにおける言語、靈魂、コスモロジー——富士谷御杖の言霊説と神道説” Symposium on Early Modern Japanese Values and Individuality, Asian Centre, University of British Columbia, 2013年8月。

**黒崎浩行** 准教授 情報化と宗教、現代社会と神社神道

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

[単行本]

- ・『震災復興と宗教』(稲場圭信と共編)叢書宗教とソーシャル・キャピタル第4巻、明石書店、2013年4月。

[論文]

- ・「宗教を越えた災害支援のネットワーク」國學院大學研究開発推進センター編、古沢広祐責任編集『共存学2 災害後の人と文化 ゆらぐ世界』弘文堂、2014年2月、pp.69-84。
- ・「復興の困難さと神社神道」国際宗教研究所編『現代宗教2014』国際宗教研究所、2014年3月、pp.227-248。

[口頭発表]

- ・「福島県南相馬市の神社における災害の記憶継承と地域再生の祈り」神道宗教学会第67回学術大会パネル発表「神道と自然災害—神社に遺された自然災害伝承からみる—」(代表者 藤本頼生)、2013年12月。

[その他]

- ・(研究ノート)「宗教者災害救援マップの構築過程と今後の課題」(稲場圭信と共著)『宗教と社会貢献』3巻1号、2013年4月、pp.65-74。
- ・(研究ノート)「災害と神社関係絵葉書：仙台平野から相馬地方まで」國學院大學研究開発推進機構学術資料センター編『学術資料センター絵葉書資料目録〈青森・岩手・宮城・福島〉：宮地直一旧蔵資料・神道資料館所蔵資料』國學院大學研究開発推進機構学術資料センター、2014年2月、pp.167-169。
- ・(報告書項目)「宗教界の動き：総論」『311復興支援 無形文化遺産情報ネットワーク報告書2013: 東日本大震災被災地域における無形文化遺産とその復興』独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所無形文化遺産部、2014年3月、pp.108-109。

**平藤喜久子** 准教授 神話学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

[単行本]

- ・『開運！神社さんぽ2』(監修)上大岡トメ(著)、泰文堂、2013年8月。

[口頭発表等]

- ・“Deities in Japanese popular culture”, at Seventh Annual International Conference on Comparative

Mythology, International Association for Comparative Mythology & Eberhard Karls University, Tübingen, 2013年5月。

- ・「ファシズム期と日本神話」(パネル「ファシズム期における古代理解」)、日本宗教学会第72回学術大会、於國學院大學、2013年9月。
- ・(講演)「世界の神話と日向神話」神話のふるさと県民大学(宮崎県主催)、於宮崎県立美術館、2013年10月。
- ・(講演)「神話学から見た遷宮」第72回 学習院大学史料館講座、於学習院大学、2013年11月。

**ノルマン・ヘイヴンズ (HAVENS, Norman)** 准教授 日本宗教史、日本の民間信仰  
担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

[論文]

- ・「文化多様性と共存の行方—欧米の動向をふまえて—」國學院大學研究開発推進センター編、古沢広祐責任編集『共存学：文化・社会の多様性』弘文堂、2012年3月 [※掲載漏れの過年度業績]。
- ・「神道から見た沖ノ島」世界遺産推進会議編、『宗像・沖ノ島と関連遺産群 研究報告Ⅱ—2』2012年 [※掲載漏れの過年度業績]。

[口頭発表]

- ・「多様性の価値をグローバルで考える」共存学フォーラム2011「生命(いのち)と文化の多様性——森・里・海の絆を結ぶ」、於國學院大學、2011年1月 [※掲載漏れの過年度業績]。

**松本久史** 准教授 近世・近代の国学、神道史

担当研究事業「[國學院大學 国学研究プラットフォーム]を拠点とする国学の『古事記』解釈の研究」

[論文]

- ・「篠崎東海と荷田春満：和学をめぐる一考察」『國學院雑誌』114巻4号、2013年4月、pp.1-13。

**星野靖二** 准教授 宗教学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

[論文]

- ・「北米の日本宗教研究について(特集 日本文化研究再考)」『國學院大學研究開発推進機構紀要』第6号、2014年3月、pp.1-29。

[口頭発表]

- ・「キリスト教メディアの近代」(パネル「雑誌メディアからみた近代宗教史」)日本宗教学会第72回学術大会、於國學院大學、2013年9月。
- ・“(In)Expedient Others: Visions of Asia in Modern Buddhism in Japan” at the Duke / Korea University conference, “Bordering the Borderless: Faces of Modern Buddhism in East Asia,” held at Duke University, 2013年10月。

[その他]

- ・(報告)「ハーバード大学への派遣について」『國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所年報』第6号、2013年9月、pp.23-26。

**塚田穂高** 助教 宗教社会学、近現代日本の宗教運動

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

[論文]

- ・「戦後日本宗教の国家意識と政治活動に関する宗教社会学的研究—新宗教運動のナショナリズムを中心に—」東京大学大学院人文社会系研究科提出博士論文、2013年4月。

- ・「宗教文化教育の到達目標に関する一考察—第1～4回宗教文化士試験問題の分析から—」『國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所年報』第6号、2013年9月、pp.67-83。
- ・「偽装・虚勢・無反省—「新新宗教」に蔓延する諸問題—」『中央公論』2014年1月(1562)号、2013年12月、pp.40-47。
- ・「戦後保守合同運動の展開—日本会議の事例を中心に—」小島伸之編『平成23年度～平成25年度 科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書 近現代日本の宗教とナショナリズム—国家神道論を軸にした学際的総合検討の試み—』、2014年3月、pp.62-76。
- ・「公有地上宗教施設の全国調査を実施して—砂川市有地上神社問題との関連から—」『政教関係を正す会報』43、2014年3月、pp.15-24。

#### [口頭発表]

- ・(講演)「カルト問題を大学で教える—オウム真理教はなぜ蔓延するか—」烏山地域オウム真理教対策住民協議会第26回学習会、於東京都世田谷区烏山区民センターホール、2013年5月。
- ・「グローバル化の中の在るべき日本／宗教—幸福の科学の政治進出—」(テーマ・セッション「グローバル化とアイデンティティ 第2回」)「宗教と社会」学会第21回学術大会、於皇學館大学、2013年6月。
- ・(講演)「公有地上宗教施設の全国調査を実施して—砂川市有地上神社問題との関連から—」政教関係を正す会研究会、於神社本庁、2013年8月。
- ・「新宗教の発生・展開過程における「精神療法」の位置」(パネル「近現代日本の民間精神療法の展開」)日本宗教学会第72回学術大会、於國學院大學、2013年9月。
- ・「公有地上における宗教・民間信仰関連施設の分布に関する全国調査—行政の現場における「宗教」概念と政教問題認識—」第86回日本社会学会大会、於慶應義塾大学、2013年10月。
- ・(講演)「大学におけるカルト問題教育の実践と学生の反応」全国靈感商法対策弁護士連絡会全国集会、於プラザエフ、2013年10月。
- ・「戦後保守合同運動の展開—日本会議の事例を中心に—」科研費研究「近現代日本の宗教とナショナリズム」公開研究会—「国家神道」の担い手—をめぐる多角的検討—、於東洋大学、2013年12月。
- ・『宗教と社会のフロンティア』のねらいについての回顧・比較・展望」宗教社会学の会研究会『宗教と社会のフロンティア』合評会、於西成プラザ、2014年1月。
- ・「日本の近代化と新宗教運動」(分組「現代日本における宗教と社会の最前線—東アジアとの対話を通じて①—」)香港亞洲研究學會第九屆研討會、於香港大学、2014年3月。

## 鈴木聡子 助教(特任) 神道史学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

#### [論文]

- ・「神社年中行事の成立過程について—二十二社・一宮の農耕行事に焦点をあてて—」國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所『國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所年報』第6号、2013年9月、pp.84-96、2013年9月。
- ・「第三章 御厨神明と在地信仰「1 神宮の御厨・御園の全国的展開」および「6 下総国の御厨」]、「房総の伊勢信仰」企画委員会編『房総の伊勢信仰』雄山閣、2013年9月、pp.66-72、pp.97-106。

#### [口頭発表]

- ・「神社年中行事の成立過程について—農耕行事を事例にあげて—」日本宗教学会第72回学術大会、於國學院大學、2013年9月8日。
- ・(講演)「神社の年中行事」学びへの誘い、國學院大學・松本市・松本市教育委員会、於松本市時計博物館、2013年9月22日。

#### [その他]

- ・(項目執筆)「総論 祭りと年中行事—神社の年中行事」、「賀茂御祖神社、賀茂別雷神社」、「春日大社」、

「付録 年中行事と祭り一覧表」、岡田莊司・笹生衛編、『事典 神社の歴史と祭り』吉川弘文館、2013年4月、pp.30-31、pp.119-126、pp.139-146、pp.367-393。

- ・「神話にまつわる一年の神事」『歴史読本』2月号（第59巻第2号）KADOKAWA、2013年12月、pp.135-147。

## 市川 収 客員研究員 惑星物質科学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

## カール・フレレ (FREIRE, Carl) 客員研究員 近代の日本史（特に社会史・思想史）

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

## 李和珍 PD 研究員 宗教社会学、日韓の新宗教教団の比較研究

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

[その他]

- ・「対馬の仏像盗難のゆくえ」『ラク便り』第58号、2013年5月、pp.49-52。

## 加藤 久子 PD 研究員 政治と宗教

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

[口頭発表]

- ・「<アウシュヴィッツ>とともに暮らすということ—負の文化遺産と地元住民」慶應義塾大学人類学研究会・三田哲学会、於慶應義塾大学、2013年7月9日。

[その他]

- ・「教皇ベネディクト 16 世の退位と新教皇フランシスコの即位—日本のメディアはどのように報じたか」『ラク便り』第58号、2013年5月、pp.56-59。
- ・「教皇フランシスコは改革者か」『宗教と現代がわかる本 2014』平凡社、2014年3月、pp.112-115。
- ・「気になる人物の発言集・2013年の物故者」『宗教と現代がわかる本 2014』平凡社、2014年3月、pp.222-237。

## 天田 顕徳 研究補助員 宗教社会学、民族宗教研究

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

[口頭発表]

- ・“Today’s situation of Japanese sacred place: in case of *shugendo*” 宗教とツーリズム研究会、於筑波大学、2013年6月24日。
- ・(コメンテーター)「都市空間と宗教コミュニティ」東アジア人類学研究会第43回研究会・中国ムスリム研究会第25回定例会(共催)、於東京大学、2013年6月29日。
- ・「信仰・文化・ノスタルジー—筑波山の窟を巡る人々—」(パネル:「宗教研究における講究の意義と可能性」)日本宗教学会第72回学術大会、於國學院大學、2013年9月8日。
- ・「講」の語られ方—計量テキスト分析によるアプローチ—新聞を事例に— 講研究会第35回例会、於駒澤大学、2013年10月19日。
- ・「修験道の現代—大峯奥駈修行を事例として—」慶應義塾大学人類学研究会・三田哲学会(共催)於慶應義塾大学、2013年11月12日。
- ・「信仰・文化・ノスタルジー—筑波山の窟を巡る人々—」(パネル:「宗教研究における講究の意義と可能性」)日本宗教学会第72回学術大会、於國學院大學、2013年9月8日。

[その他]

- ・「『富士山信仰』関連報道の推移に関する覚え書き—世界遺産登録運動に着目して—」『ラク便り』第60号、2013年11月、pp.56-63。

## 齋藤公太 研究補助員 宗教学、日本思想史

担当研究事業：「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』を拠点とする国学の『古事記』解釈の研究」

### 【研究紹介】

思想史の手法により神道思想を研究している。具体的には北畠親房の『神皇正統記』とその政治的な神道思想が、近世から近代にかけてどのように解釈されていったのかという問題に取り組んできた。明治以降の大々的な顕彰に至る過程とその社会的背景を解明することが課題である。別の面からいえば垂加神道や水戸学といった儒家神道の系譜に関する研究であり、若林強斎などの人物を取り上げてきた。

儒家神道に限らず、近世における神典解釈や歴史叙述の歴史、後期水戸学と国学の交渉といった問題にも関心がある。また村岡典嗣のような近代知識人の神道論についても研究を行っている。今後は翻訳活動や海外の研究者との交流も積極的に行っていきたい。

### 【論文】

- ・「不可視の「神皇」——若林強斎の祭政一致論」『宗教研究』378、2013年12月、pp.27-50。

### 【口頭発表】

- ・「近世における神皇正統記の受容史」日韓次世代学術フォーラム10周年記念国際学術大会、於東西大学校セントラムキャンパス、2013年6月29日。
- ・「後期水戸学の祭政一致論」日本宗教学会第72回学術大会、於國學院大學、2013年9月8日。

### 【2012年度までの主な研究業績】

- ・「神代の余風——北畠親房の祭政一致論をめぐる」『東京大学宗教学年報』29、2011年、pp.49-67
- ・「若林強斎の祭政一致論」日本宗教学会第71回学術大会、於皇學館大学、2012年9月9日。
- ・「書評 William E. Connolly, *Capitalism and Christianity, American style*」『東京大学宗教学年報』27、2009年、pp.187-193。

## 早乙女牧人 PD 研究員 日本中世文学

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』を拠点とする国学の『古事記』解釈の研究」

### 【研究紹介】

日本中世和歌文学を専攻し、京極派和歌および京極派歌人の動向を中心に研究している。和歌史上における京極派の位置づけを再検討するとともに、同時代の二条派、冷泉派といった歌壇・歌人・詠作との比較も試みる。また、中心人物として京極為兼の動向を考察する。勅撰集編纂という一大事業への関心はもちろん、佐渡で詠んだとされる「為兼卿三十三首」の諸本検討や『徒然草』註釈書との関連性、あるいは各地に散逸する伝承歌の考察など、細かな作品群にも着目する。さらに、「為兼卿集（補遺）」といった近世期の史料などを通して、為兼および京極派が中世以降、いわゆる和学者らにどのように受容されたのかといった通史的な面からも考証する。

### 【論文】

- ・「荷田春満和歌関係資料集 付『伊勢物語童子問草稿』補遺」（一戸渉・中村正明との共著、國學院大学文学部）平成22年度～平成25年度 科学研究費補助金 基盤研究（B）（一般）研究成果報告書『近世における前期国学の総合的研究』、2014年3月、pp.77-135。

### 【その他】

- ・（索引）「書名索引」「人名索引」「和歌・発句索引」東海大学付属図書館編、『桃園文庫目録』下巻、東海大学付属図書館、2013年5月23日、pp.5-90。

### 【2012年度までの主な研究業績】

- ・「『為兼卿三十三首』諸本に関する一検討——禪長寺本を中心に——」『国文学 言語と文芸の会』2012

年度大会発表、於明治大学駿河台キャンパス、2012年12月9日。

- ・「文学部日本文学科「国語表現法2」指導実践報告—大学における国語表現指導の試みと展開（二）」（安達原達晴・千金楽健との共著）『東海大学紀要（文学部）』94、2011年3月、pp.111-136。
- ・「幕末期の遊行寺における阿弥号授与—細木香以外の活動を中心に」『東海大学日本語・日本文学研究と注釈』1、2010年12月、pp.19-40。
- ・（解題）「【解題】添削・歌評資料」『新編荷田春満全集』12、2010年2月、pp.686-716。

## 武田幸也 PD 研究員 近代神道史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』を拠点とする国学の『古事記』解釈の研究」

### 【論文】

- ・「神宮教の教説に関する一考察—藤井稜威の著作を中心に—」『明治聖徳記念学会紀要』復刊第50号、2013年11月、pp.607-634。
- ・「近代伊勢信仰研究の課題と展望」『國學院大學研究開発推進機構紀要』第6号、2014年3月、pp.85-111。
- ・「明治後期における神宮奉斎会と皇典講究所—「祭祀」と「宗教」をめぐって—」『國學院大學 校史・学術資産研究』第6号、2014年3月、pp.71-109。

### 【口頭発表】

- ・「神宮奉斎会の成立過程とその変化」神道宗教学会第67回学術大会、於國學院大學、2013年12月8日。
- ・「神宮教・神宮奉斎会における神風講社」第39回講研究会例会、於駒澤大学、2014年2月22日。

## 市田雅崇 共同研究員 民俗宗教研究

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

## 一戸渉 共同研究員 日本近世文学

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』を拠点とする国学の『古事記』解釈の研究」

## 今井信治 共同研究員 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

### 【口頭発表】

- ・“Alternative Tourism in Japan: In the case of anime ‘sacred pilgrimages’” 宗教とツーリズム研究会、於筑波大学、2013年6月24日。
- ・「都市に投射される聖地空間—アニメ『聖地巡礼』を事例に一」第43回東アジア人類学研究会・第25回中国ムスリム研究会共催、於東京大学、2013年6月29日。
- ・“Implicit Religion” 概念の展開」日本宗教学会第72回学術大会、於國學院大學、2013年9月8日。

### 【その他】

- ・（書評）「宗教がわかる Book ガイド（2013年刊）」（相澤秀生・光成歩・虫賀幹華と共著）『宗教と現代がわかる本2014』平凡社、2014年3月、pp.268-277。

## 小田真裕 共同研究員 日本近世史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』を拠点とする国学の『古事記』解釈の研究」

## イグナシオ・キロス (QUIROS, Enrique Ignacio Luis) 共同研究員 上代の国学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

イヴ・カドー (CADOT, Yves) 共同研究員 日本学、日本武道研究  
担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

小堀馨子 共同研究員 古代ローマ宗教研究  
担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

野口生也 共同研究員 宗教人類学、ペンテコスタリズム研究  
担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

[口頭発表]

- ・「ペンテコスタリズムの越境性—韓国から日本への展開—」日本宗教学会第72回学術大会、於國學院大學、2013年9月7日
- ・「越境するペンテコスタリズム—日本における韓国系教会の事例から—」「宗教と社会」学会「東アジアにおけるキリスト教の越境と交流」プロジェクト第1回研究会、於國學院大學、2013年11月30日

藤井麻央 共同研究員 宗教学、近代日本宗教史  
担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

[研究紹介]

教派神道体制に編入された初期新宗教のうち金光教を主な事例として、教団組織の形成・展開を研究している。特に、教師養成や普通教育に関する教団の機関が、近代日本の宗教を取り巻く社会環境や宗教行政との関係でどのように形成され、それらの機関が教団運営にどのような影響を与えたのかについて関心を持っている。

[論文]

- ・「大正期の金光教における「めぐり」論の浮上とその背景」『國學院大學大学院紀要—文学研究科—』45、2014年3月、pp.91-109。
- ・「天理教有志の支援活動—活動様態の構成に着目して（東日本大震災と宗教—福島県いわき市の事例から）」『宗教学年報』29、2014年3月、pp.121-140。

[口頭発表]

- ・「金光教第二世代による「一般の宗教の研究」とその背景」日本宗教学会第72回学術大会、於國學院大學、2013年9月7日。
- ・「新宗教における教育機関の機能—明治後期の金光教の事例」神道宗教学会第67回学術大会、於國學院大學、2013年12月8日。

[2012年度までの主な研究業績]

- ・「新宗教教団の震災対応と組織比較—天理教と創価学会を事例として」『宗教学年報』27、2012年3月、pp.145-150。

村上晶 共同研究員 宗教社会学、シャーマニズム研究  
担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

[論文]

- ・“From miko to spiritual therapist: shamanistic initiations in contemporary Japan” *Journal of Religion in Japan* 3(1), Brill, (co-written with Ioannis Gaitanidis).

[口頭発表]

- ・「巫俗の継承について—弘前市の村祈祷を事例として—」日本宗教学会第72回学術大会、國學院大學、2013年9月。



ヤニス・ガイタニデイス (GAITANIDIS, Ioannis) 共同研究員  
医療人類学、宗教社会学、日本学  
担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

山梨有希子 共同研究員 宗教学  
担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

オリガ・ヤゾフスカヤ (YAZOVSKAYA, Olga) 共同研究員 宗教学  
担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

土屋博 客員教授 宗教学  
担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

ナカイ・ケイト (NAKAI, Kate W) 客員教授 日本思想史  
担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

林淳 客員教授 日本宗教史  
担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』を拠点とする国学の『古事記』解釈の研究」

星野英紀 客員教授 宗教学  
担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

山中弘 客員教授 宗教社会学  
担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」  
[単行本]

・『世界は宗教とこうしてつきあっている』（藤原聖子と共編）弘文堂、2013年12月。